

2006年12月期 中間決算



TAIYO INDUSTRIAL CO.,LTD.



TAIYO

太洋工業株式会社

JASDAQ・6663

目次

- ◆ **会社概要**
- ◆ **2006年12月期中間決算の実績**
- ◆ **2006年12月期決算の見通し**
- ◆ **今後の展望**

会社概要

特徴・強み



☆あらゆるニーズに対応したFPC※の試作

☆短納期を実現（中2日～高精細でも中6日）

FPCの試作に特化

安定的な受注

セットメーカーとの
緊密な関係

高収益

※FPC：フレキシブルプリント配線板。

TAIYO INDUSTRIAL CO.,LTD.

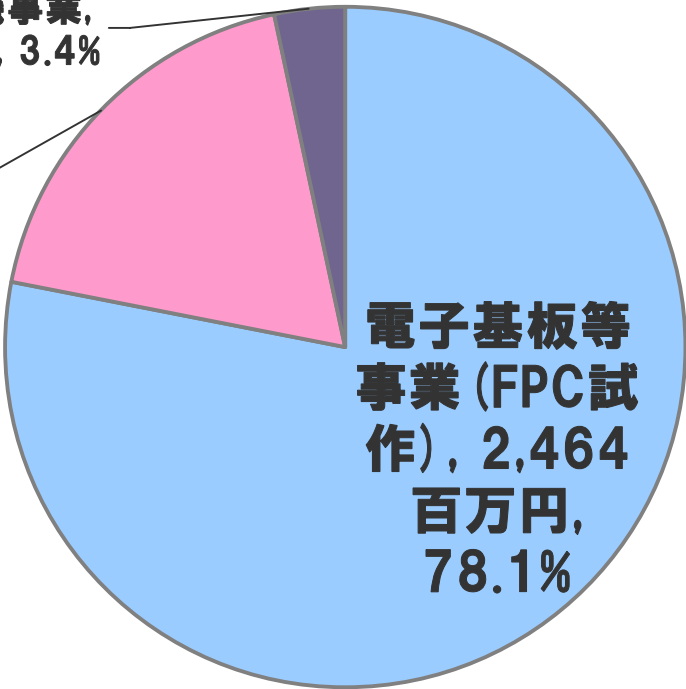
事業内容

電子基板等事業（FPCの試作）が主力。



鏡面研磨機事業,
107百万円, 3.4%

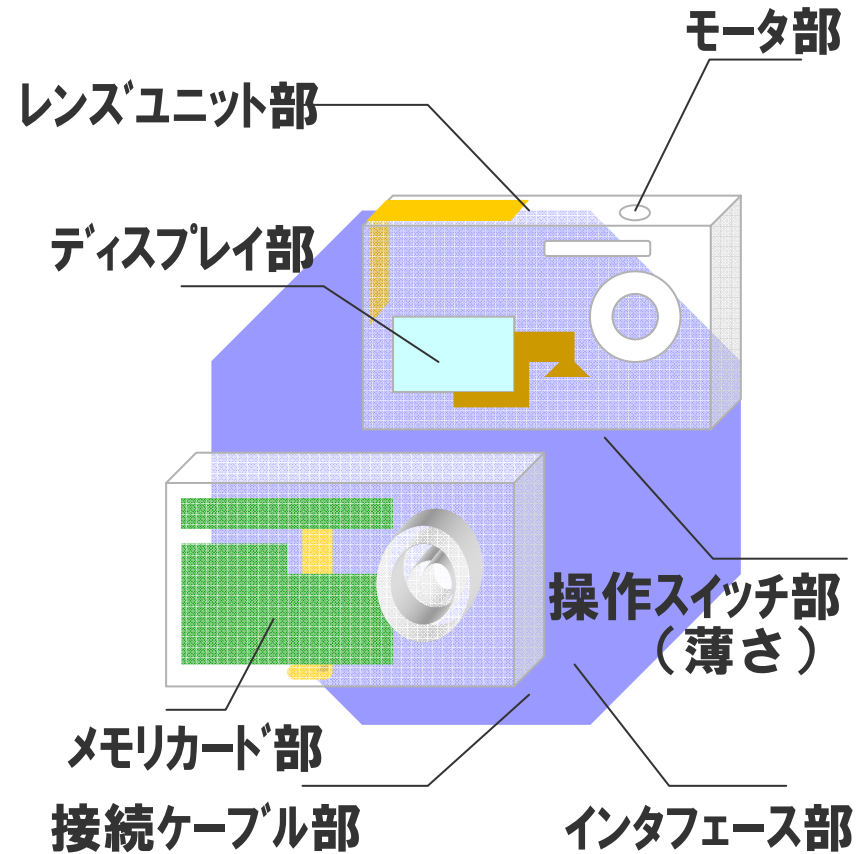
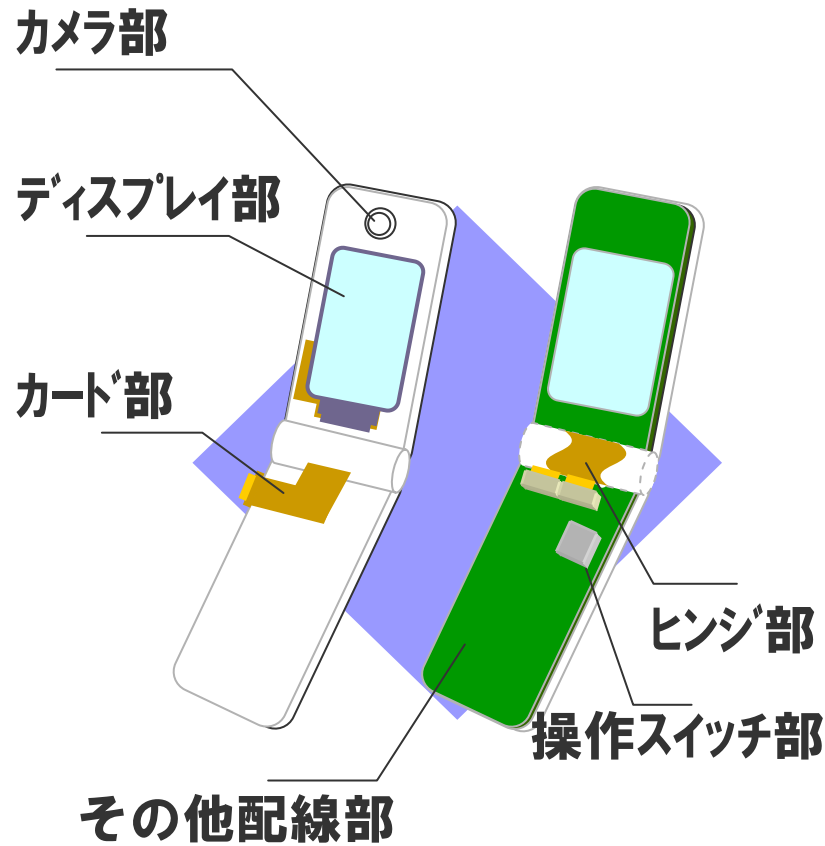
基板検査機事業,
582百万円,
18.5%



※06/12期中間決算の状況

F P Cの用途

F P Cの主な用途は携帯電話、デジタルカメラ。



取引先

セットメーカー及びFPC量産メーカーと取引先。

セットメーカー

FPC試作
注文

FPC注文

FPC量産メーカー

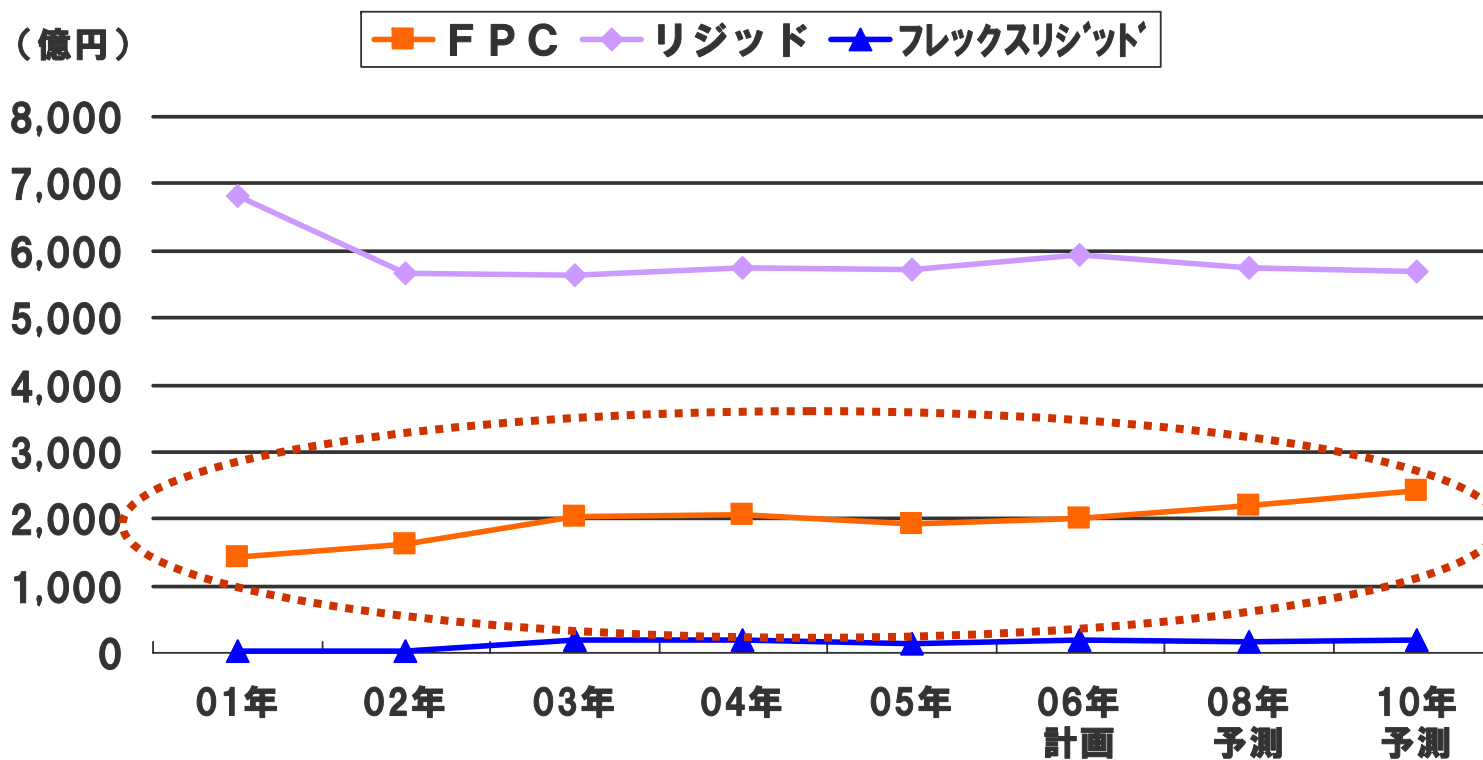
FPC試作委託

 太洋工業株式会社
TAIYO

事業環境

リジッドの横ばいに対してFPCは拡大が期待。

＜国内の電子基板の生産額＞



(資料) 社団法人日本電子回路工業会の統計をもとに作成

2006年12月期 中間決算の実績

06/12期中間決算のハイライト

◆売上高

- 前年同期比9.0%増の3,154百万円
 - 主力のF P C試作は堅調に推移。
 - 基板検査機事業の売上高が大幅に増加。

◆営業利益

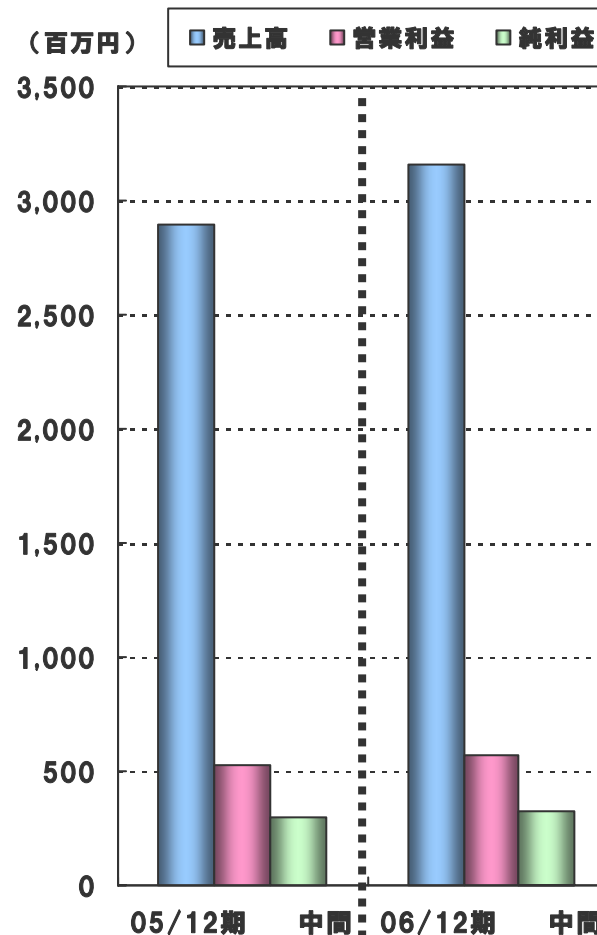
- 前年同期比9.1%増の570百万円
 - 売上高の増加に伴い営業利益も増加。

06/12期中間決算の実績

売上高、利益ともに前年同期比約9%増加。

(単位：百万円)

	05/12期	06/12期			
	中間実績 (構成比)	中間実績 (構成比)	前年 同期比	通期計画 (構成比)	進捗率
売上高	2,893 (100%)	3,154 (100%)	9.0%	6,459 (100%)	48.8%
売上総利益	1,006 (34.8%)	1,093 (34.6%)	8.6%	2,216 (34.3%)	49.3%
営業利益	522 (18.1%)	570 (18.0%)	9.1%	1,143 (17.7%)	49.8%
経常利益	520 (18.0%)	565 (17.9%)	8.6%	1,079 (16.7%)	52.3%
中間(当期) 純利益	296 (10.2%)	324 (10.2%)	9.4%	616 (9.5%)	52.5%

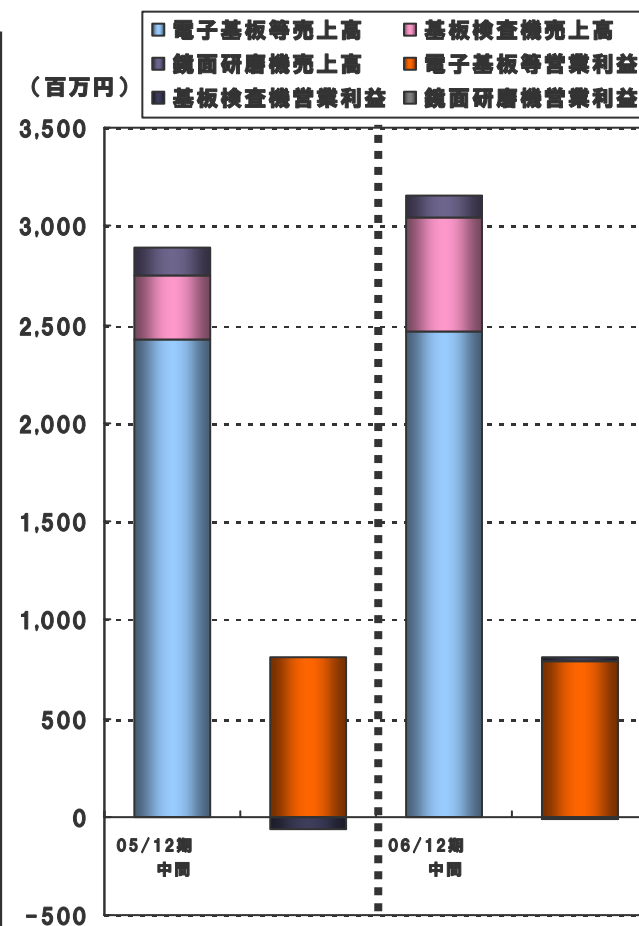


06/12期中間決算の実績（事業別）

基板検査機事業が大幅増収、黒字転換。

（単位：百万円）

		05/12期	06/12期			
		中間実績	中間実績	前年同期比	通期計画	進捗率
電子基板 等事業 (FPC他)	売上高	2,428	2,464	1.4%	5,017	49.1%
	営業利益	809	789	▲2.4%	1,546	51.0%
	(利益率)	(33.3%)	(32.0%)		(30.8%)	
基板検査 機事業	売上高	321	582	81.3%	1,050	55.4%
	営業利益	▲61	18	(-)	49	36.7%
	(利益率)	(-)	(%)		(4.7%)	
鏡面研磨 機事業	売上高	143	107	▲25.1%	392	27.2%
	営業利益	▲7	▲14	(-)	9	(-)
	(利益率)	(-)	(-)		(2.3%)	



※各営業利益は配賦不能営業費用控除前の数字を記載。

06/12期中間決算のポイント

◆電子基板等事業：微増収・微減益

- 売上高は、前年度下期からの受注単価下落の影響はあるが、前年同期比1.5%増の2,464百万円。
 - FPCとリジッド板をセットにした受注活動。
 - チップ実装、リジッド接合、モジュール化によるトータルサポート営業の展開。
 - FPCの技術を活かしたバンプ治具の販売強化。

- ただし営業利益は、前年同期比2.6%減の789百万円。
 - 今年度上期は前年度下期から続く量産メーカーのFPC試作との競合が続く。
 - 銅など金属系材料の価格上昇による材料費の増加。
 - 利益率が比較的高くない部品実装の増加。

06/12期中間決算のポイント

◆ 基板検査機事業：大幅増収・黒字転換

➤ 売上高は前年同期比で81.2%増の582百万円、営業利益は前年同期の61百万円の赤字が18百万円に黒字化。

□ 事業環境の好転

- 回復基調の景気動向や企業収益の改善による設備投資の拡大。
- 電子基板メーカー各社の海外事業の強化。

□ 販売の強化

- 検査性能を向上させた最終外観検査機の販売強化。
- 顧客ニーズを十分に取り入れた機能検査機、通電検査機の好調な販売。

◆ 鏡面研磨機事業：減収・赤字拡大

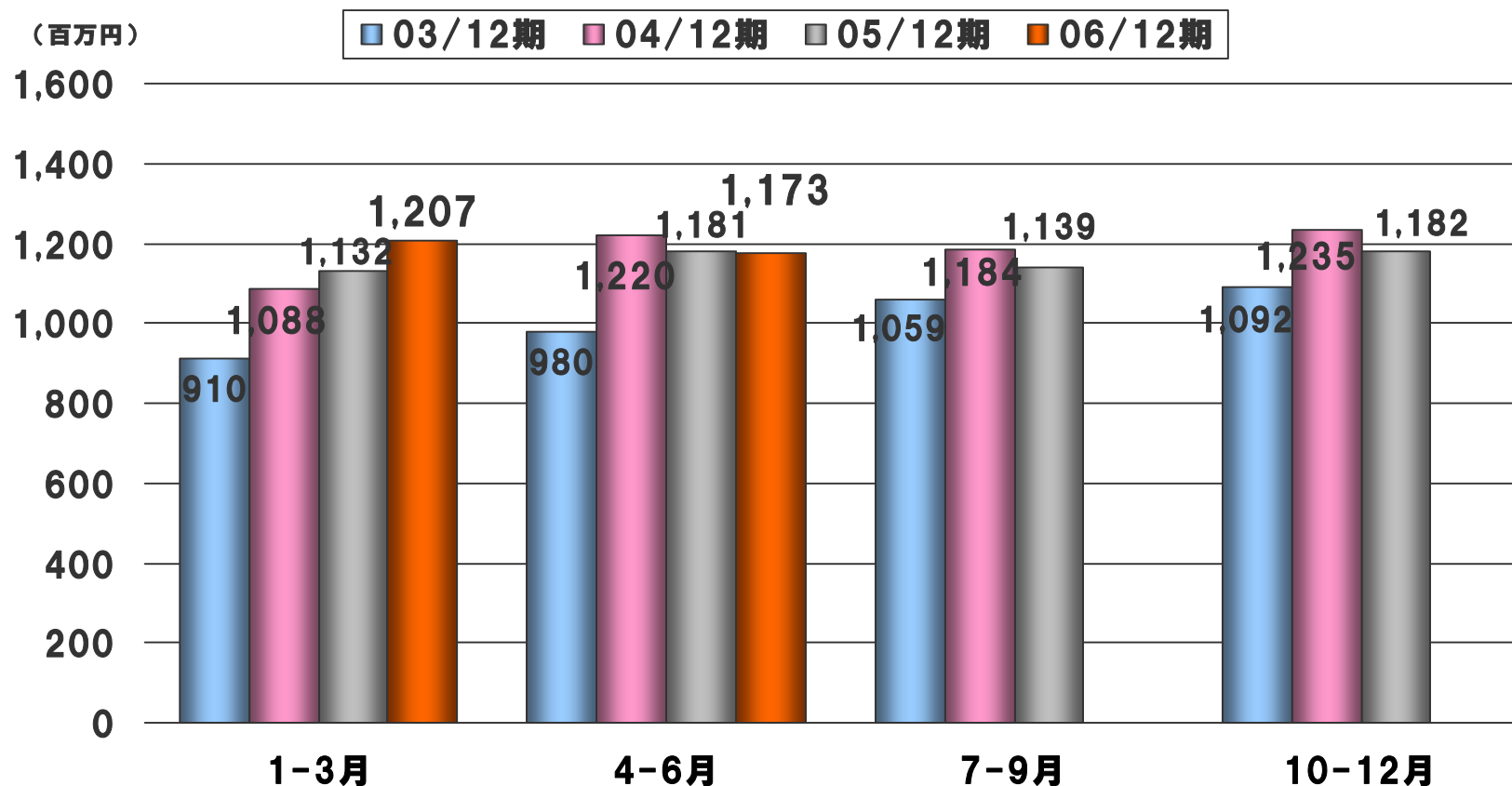
➤ 売上高は前年同期比24.9%減の107百万円、営業利益は前年同期の7百万円の赤字が14百万円の赤字に拡大。

□ 主力顧客の国内グラフィア印刷業界の不振による受注減少。

主力のFPC試作の四半期売上動向

4-6月期は1-3月期比、前年同期比ほぼ横ばいで推移。

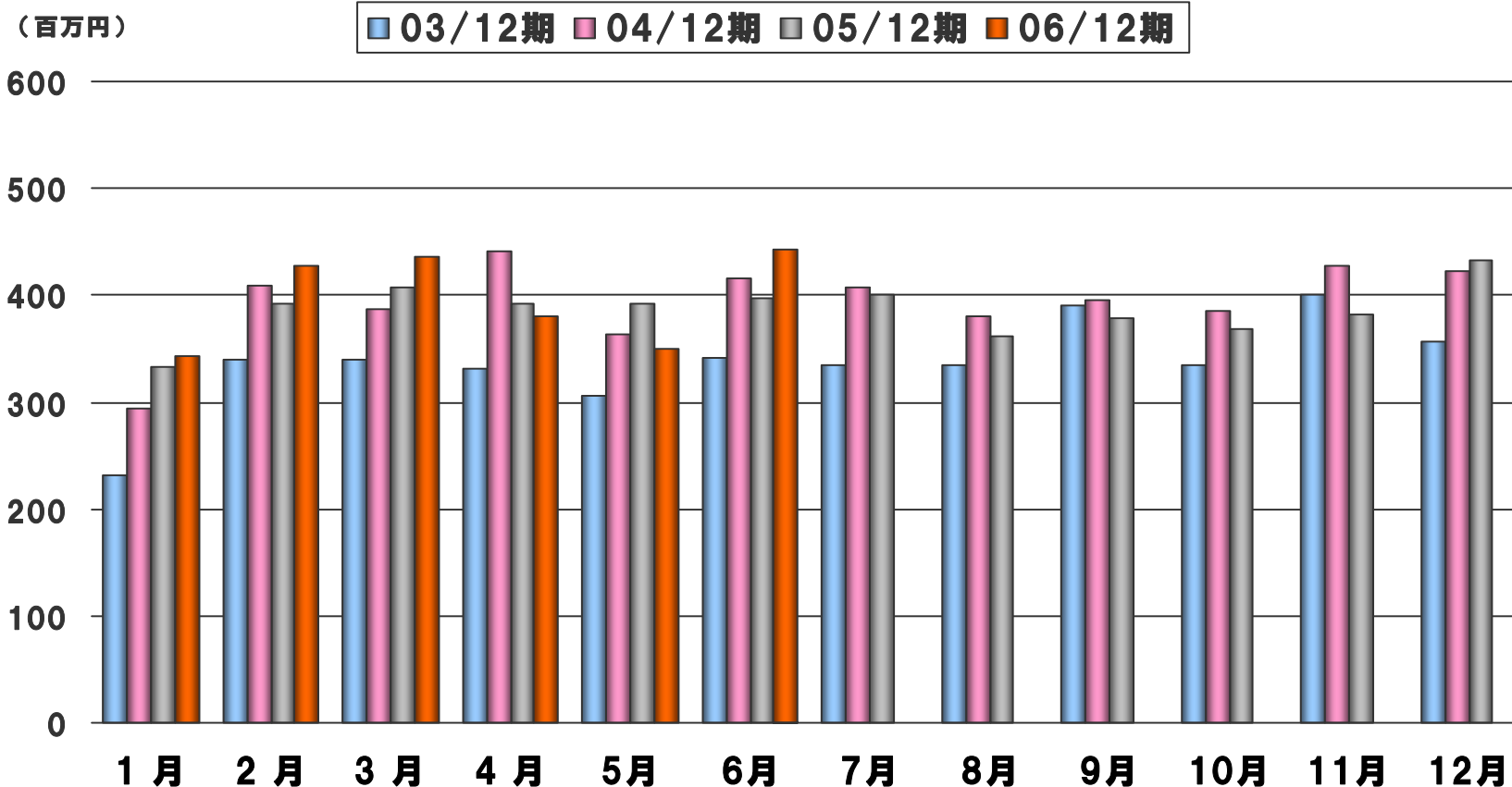
<FPCの四半期ごとの売上高の推移>



主力のFPC試作の月次売上動向

4月、5月は売上高減少だが6月で持ち直す。

<FPCの月次売上高の推移>



2006年12月期 決算の見通し

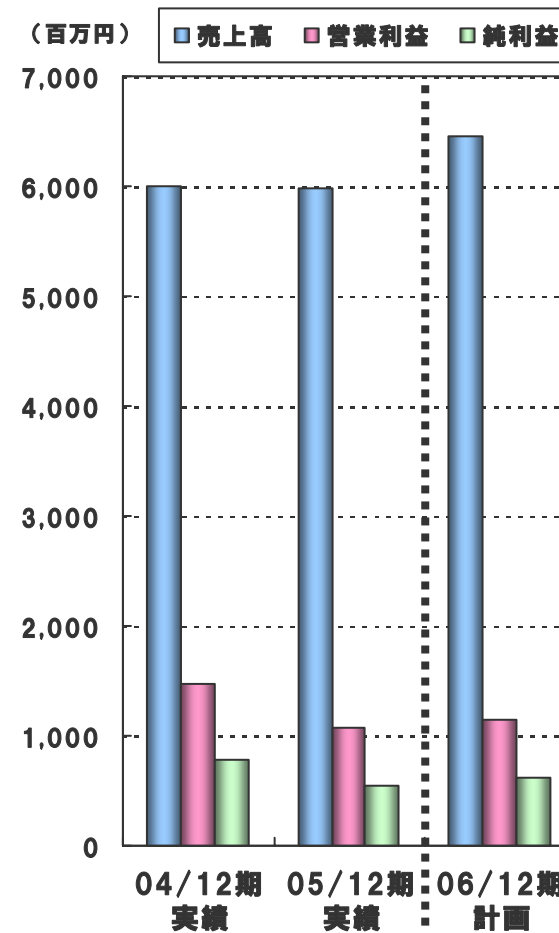
06/12期決算の見通し

主力のFPC試作の堅調な受注環境で増収・増益の見込み。

(単位：百万円)

	04/12期	05/12期	06/12週	
	実績 (構成比)	実績 (構成比)	計画 (構成比)	前年度比
売上高	6,002 (100%)	5,979 (100%)	6,459 (100%)	108.0%
売上総利益	2,373 (39.5%)	2,042 (34.2%)	2,216 (34.3%)	108.5%
営業利益	1,466 (24.4%)	1,067 (17.8%)	1,143 (17.7%)	107.2%
経常利益	1,399 (23.3%)	1,057 (17.7%)	1,079 (16.7%)	102.1%
当期純利益	784 (13.1%)	539 (9.0%)	616 (9.5%)	114.2%

(百万円)

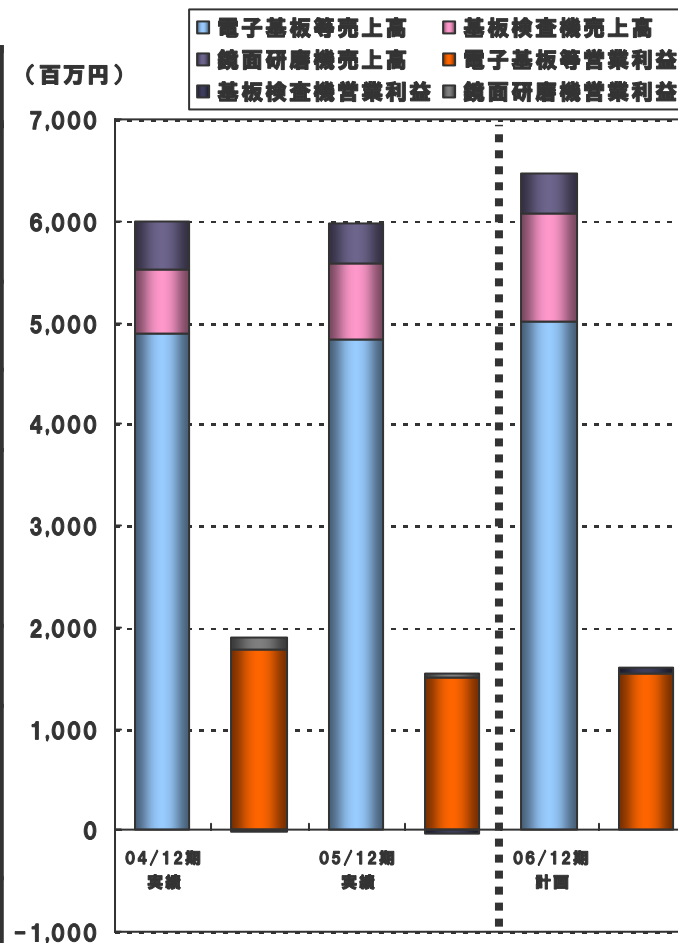


06/12期決算の見通し（事業別）

好調な受注を受けて基板検査機事業が大幅増収の見込み。

（単位：百万円）

		04/12期	05/12期	06/12期	
		実績	実績	通期	前年度比
電子基板 等事業 (FPC他)	売上高	4,897	4,838	5,017	103.7%
	営業利益	1,777	1,504	1,546	102.8%
	利益率	(36.3%)	(31.1%)	(30.8%)	
基板検査 機事業	売上高	620	744	1,050	141.0%
	営業利益	▲19	▲38	49	(-)
	利益率	(-)	(-)	(4.7%)	
鏡面研磨 機事業	売上高	484	396	392	98.9%
	営業利益	129	29	9	30.2%
	利益率	(26.6%)	(7.5%)	(2.3%)	



※各営業利益は配賦不能営業費用控除前の数字を記載。

06/12期決算見通しの下期のポイント

◆電子基板等事業（FPC試作）

➤ 堅調な受注環境

□ 今秋のナンバーポータビリティの開始など、携帯電話端末メーカーによる活発な新製品開発に伴う旺盛な試作需要。

➤ 顧客ニーズを汲み取るワンストップサービスの充実

□ 顧客に代わって部品調達までサポート。

□ 提案型営業の強化。

➤ 海外でのビジネスの可能性を探る事業化調査の開始。

06/12期決算見通しの下期のポイント

◆基板検査機事業

➤好調な受注環境

□電子基板メーカーの活発な設備投資により、最終外観検査機を中心に好調な受注。

➤利益率向上に向けた施策

□個別原価計算システムを導入し、これまで以上に厳密な原価管理を行うことで利益率向上を図る。

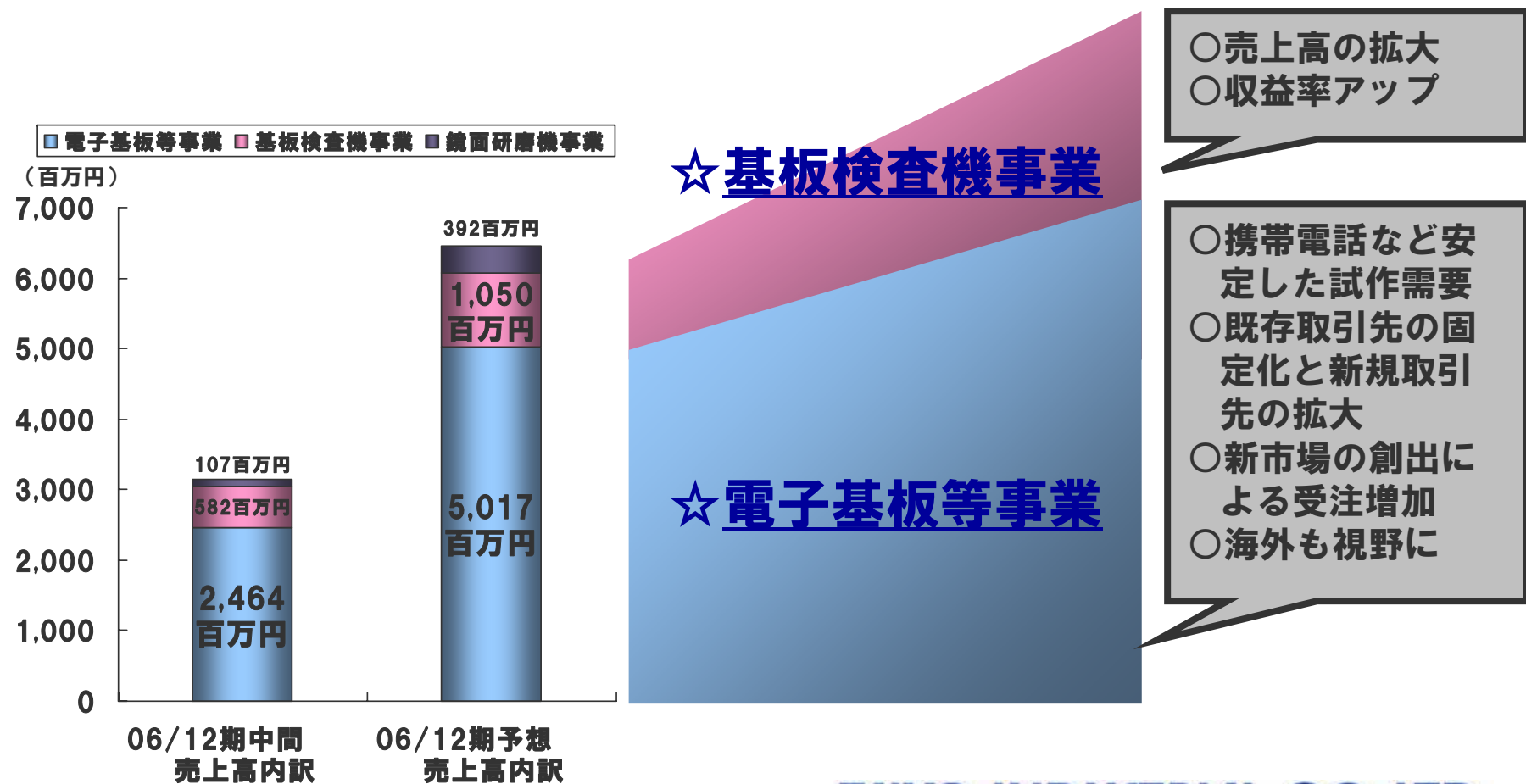
今後の展望

今後の展望

- ① 電子基板等事業のさらなる拡大
- ② 基板検査機事業の強化
- ③ 海外ビジネスの事業化調査

今後の展望

FPC試作による成長と基板検査機によるさらなる成長の加速。



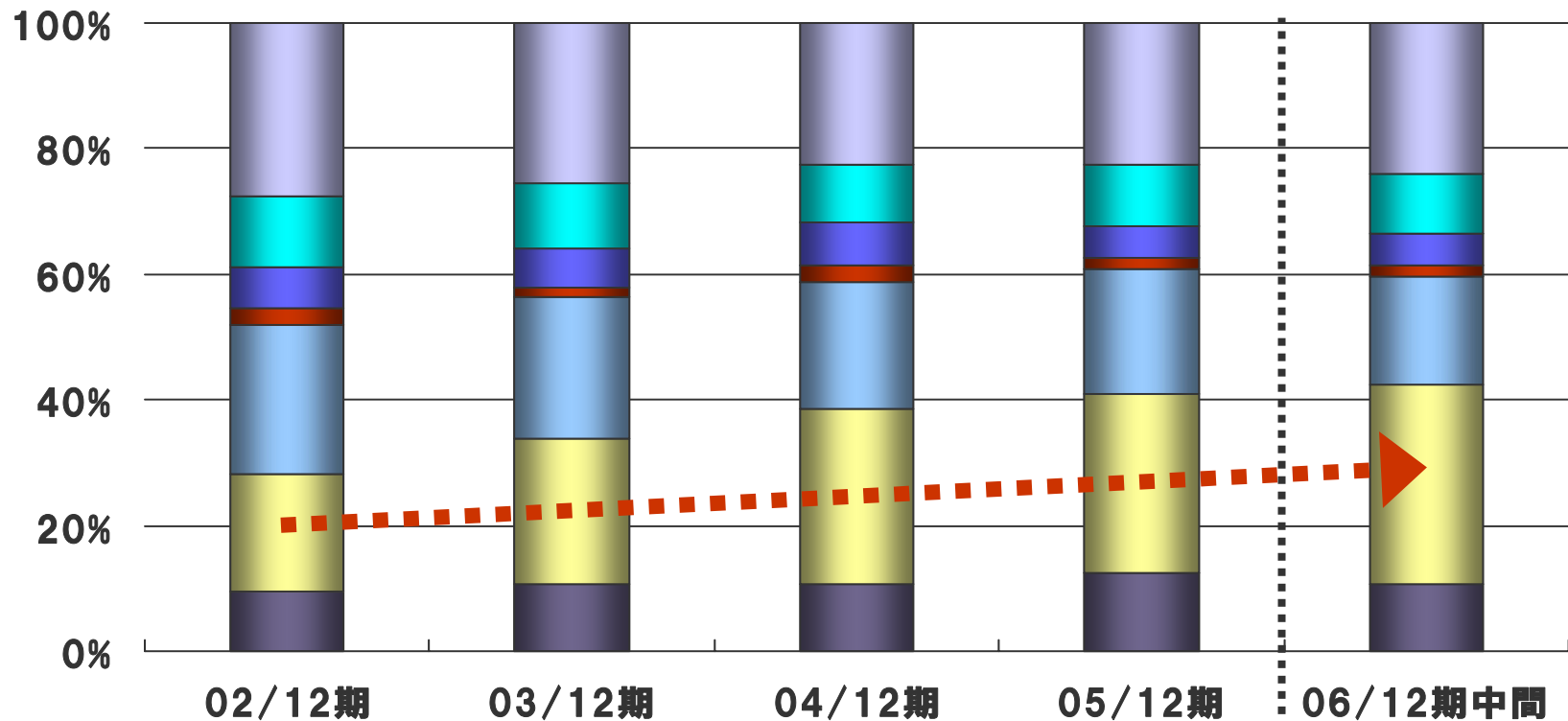
①電子基板等事業のさらなる拡大

-受注の状況-

FPCの試作は携帯電話向けが牽引。

<FPC取り引き件数の用途別分類>

■ 携帯電話 ■ ディスプレイ ■ カメラ・デジカメ ■ モーター ■ ヒックアップ ■ 産業機器 ■ その他



※ディスプレイには携帯電話向けのものも含まれる。

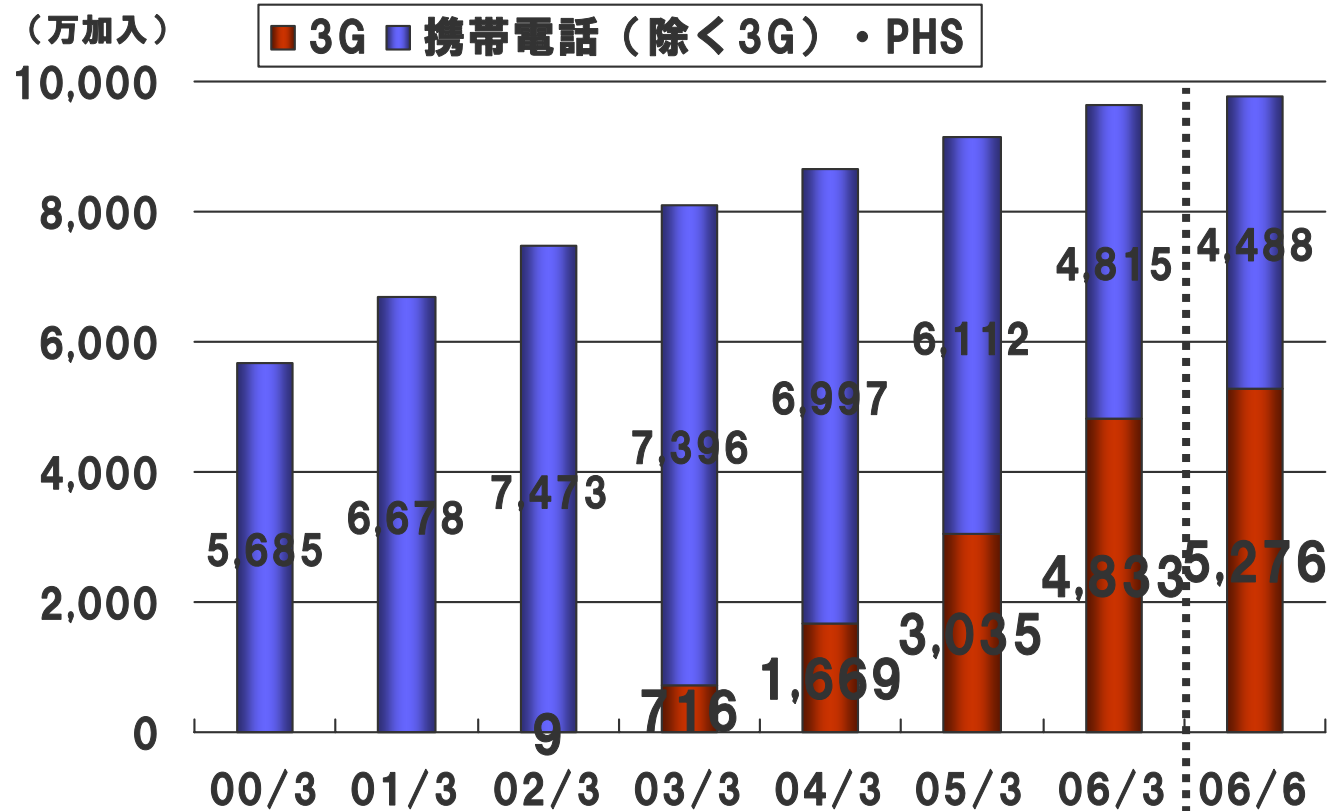
TAIYO INDUSTRIAL CO.,LTD.

① 電子基板等事業のさらなる拡大

-事業環境（携帯電話の加入者数の動向）-

鈍化しつつも継続的に増える新規加入数。3G端末の加入者数は過半数に。

<携帯電話・PHS端末の累計加入台数>



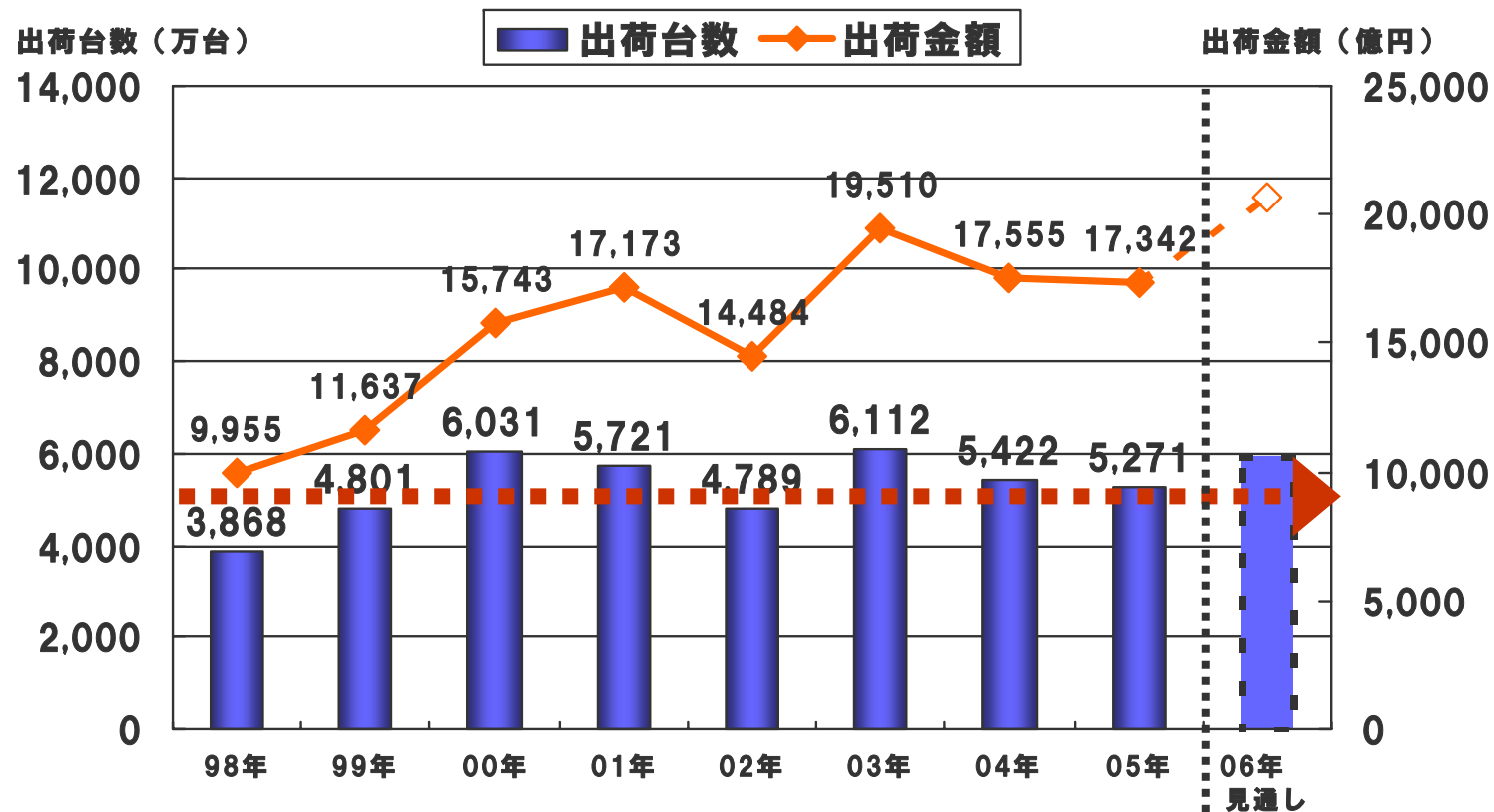
(資料) 総務省の統計をもとに作成

①電子基板等事業のさらなる拡大

-事業環境（携帯電話端末の生産動向）-

携帯電話端末の年間生産は毎年約5,000万台。恒常的な機種変更需要。

＜携帯電話端末の年間生産台数と金額＞

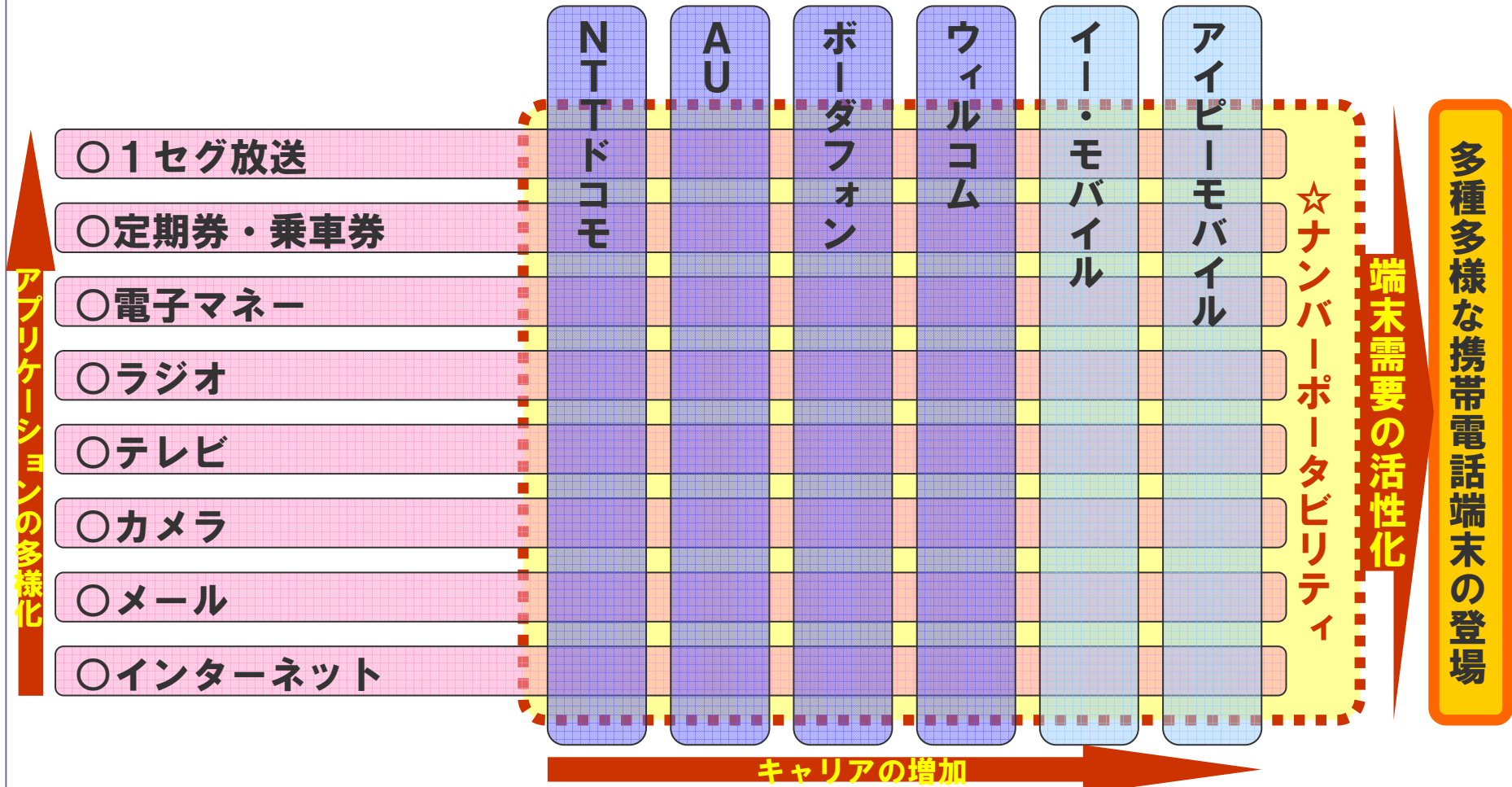


(資料) 情報通信ネットワーク産業協会の統計をもとに作成

①電子基板等事業のさらなる拡大

-安定需要が見込める携帯電話端末-

アプリケーションの多様化とキャリアの増加で多種多様な端末の登場が期待。



①電子基板等事業のさらなる拡大

-携帯電話のアプリケーションの動向-

キャリアの増加で端末メーカーの更なる新製品開発需要の拡大が期待。

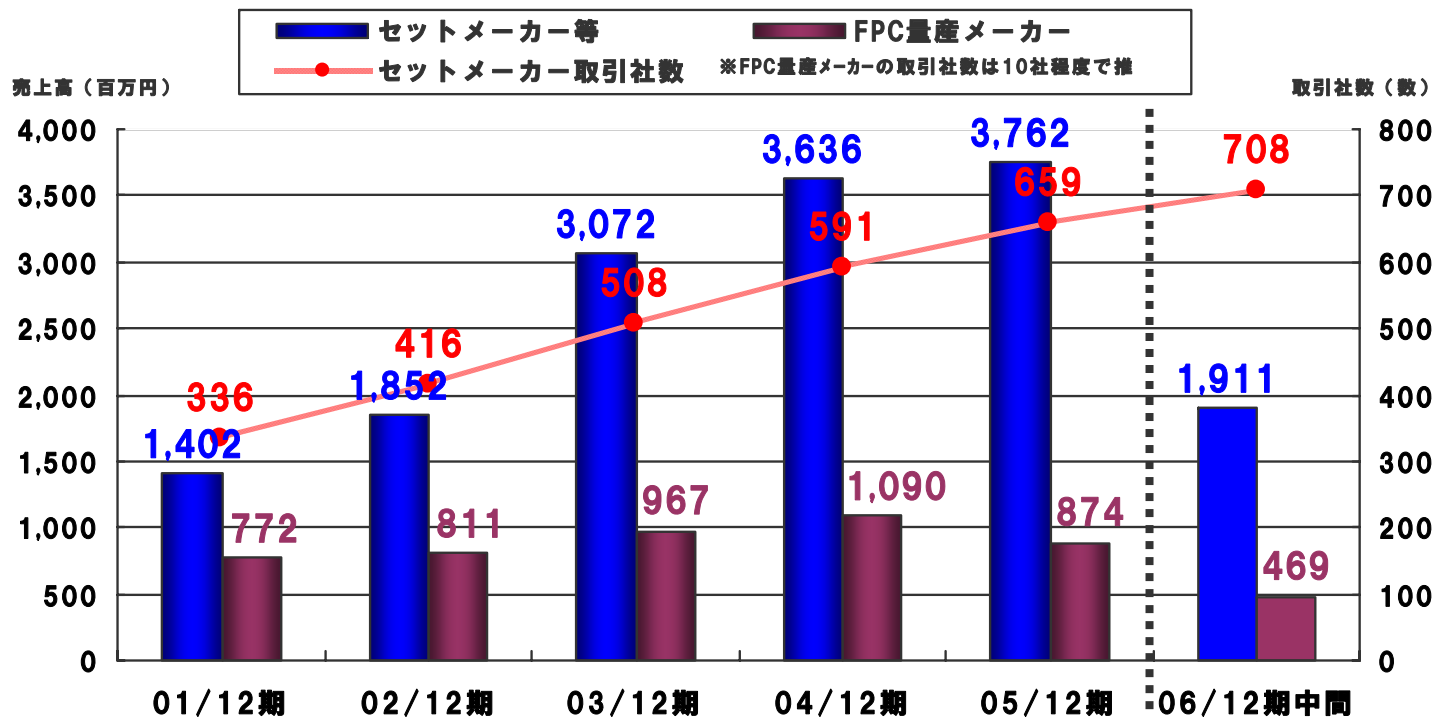
	NTT ドコモ	AU	ボーダ フォン	ウィル コム	イー・ モバイル	アイピー モバイル
NEC	○		○			
カシオ計算機		○				
京セラ		○		○		
三洋電機	○	○				
シャープ	○		○	○		
ソニー・エリクソン	○	○	○			
東芝		○	○			
日本無線	○			○		
ネットインデックス		○		○		
パナソニックモバイルコミュニケーションズ	○					
バンダイ				○		
日立製作所		○				
富士通	○					
三菱電機	○					

①電子基板等事業のさらなる拡大

- F P C 試作の取り引き状況 -

セットメーカーとの取り引きは拡大し700社を突破。

<FPCの取引先であるセットメーカーとFPC量産メーカーの売上高構成>



売上高構成比	セットメーカー等	64.5%	69.5%	76.1%	76.9%	81.1%	80.3%
	FPC量産メーカー	35.5%	30.5%	23.9%	23.1%	18.9%	19.7%

①電子基板等事業のさらなる拡大

- F P C 試作の取り引き状況 -

◆ F P C 量産メーカー：取引相手であり競合関係も

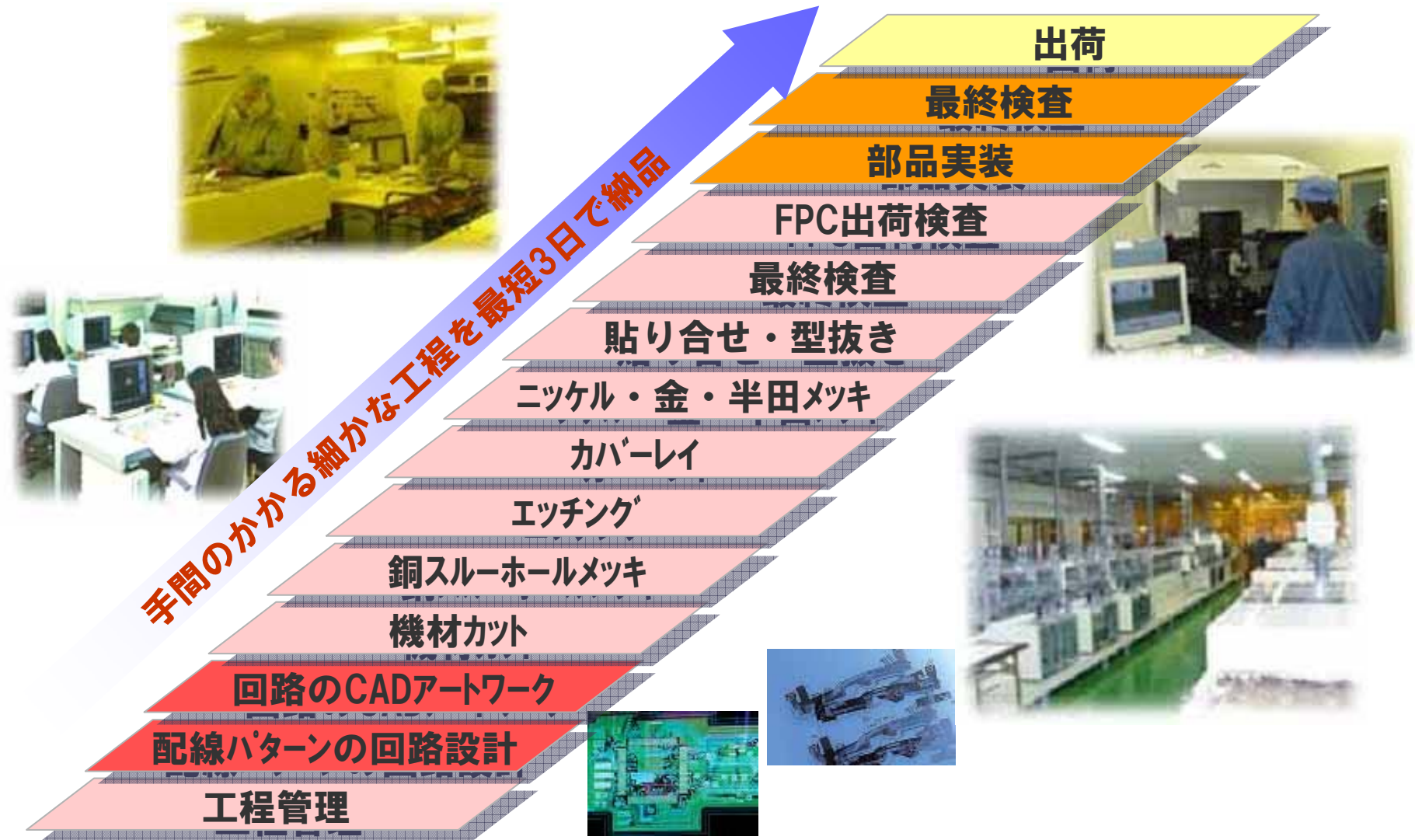
- デジタル家電好況期に積極的に設備投資した生産ラインをフル稼働するほどまでに、量産品を受注できる事業環境にないため、量産メーカーが試作にまで手を出す。
- ただし、中には量産品の生産が好調なところもあり、こうしたところからは順調に F P C 試作を受注。
- 場合によって中型量産の発注もある（収益性を見て受注）。

◆ セットメーカー：良好な取り引き関係

- 量産メーカーとの競合への対応策として、取り引き割合の多いセットメーカーの困り込みを推進。
- 「短納期」で「高品質」な F P C の試作品を納入できることに対しては、既存の取引先からは高い評価を得ており、今後もさらなる「短納期化」「高品質化」を強化。
- 取引先について、今後は、現在の約700社から社数を増やすことはもちろん、これら約700社に対して一層信頼性を高めていき、「取引量」「取引金額」をさらに拡大。
- そのために、現場を通じて顧客ニーズをきちんと吸い上げ、顧客ニーズに適うよう営業活動を推進。

①電子基板等事業のさらなる拡大

-顧客困り込みのための取り組み NO.1-



①電子基板等事業のさらなる拡大

-顧客囲い込みのための取り組み No.2-

◆高い技術力を誇る回路設計

- 顧客（セットメーカー）からのFPC試作の注文を短時間で図面化できる高い技術力を有しており、顧客からの厳しい要求を満足。
- 顧客の設計部分に積極的にコミットするコンサルティング営業も視野に。

◆部品実装、最終検査まで一貫体制充実

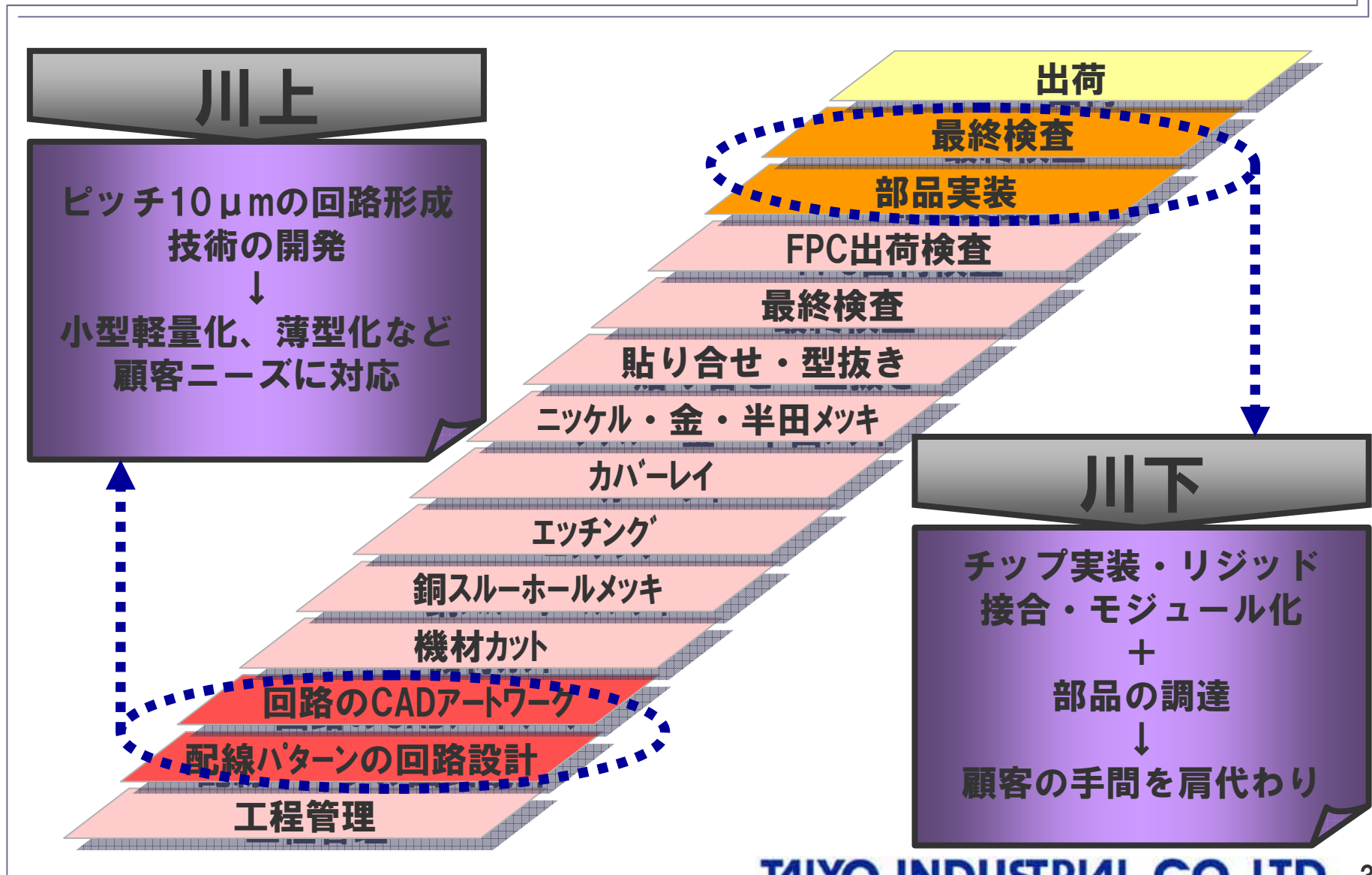
- 高度な技術力は要求されず、外注していたこれら工程を取り込み、一貫体制を充実。
- 顧客の細かなニーズに対応し、顧客満足度を高め、取り引きを強化、安定化、拡大。

ワンストップサービスによる
かゆいところにも手が届く
きめ細かな対応で囲い込み

顧客（セットメーカー）

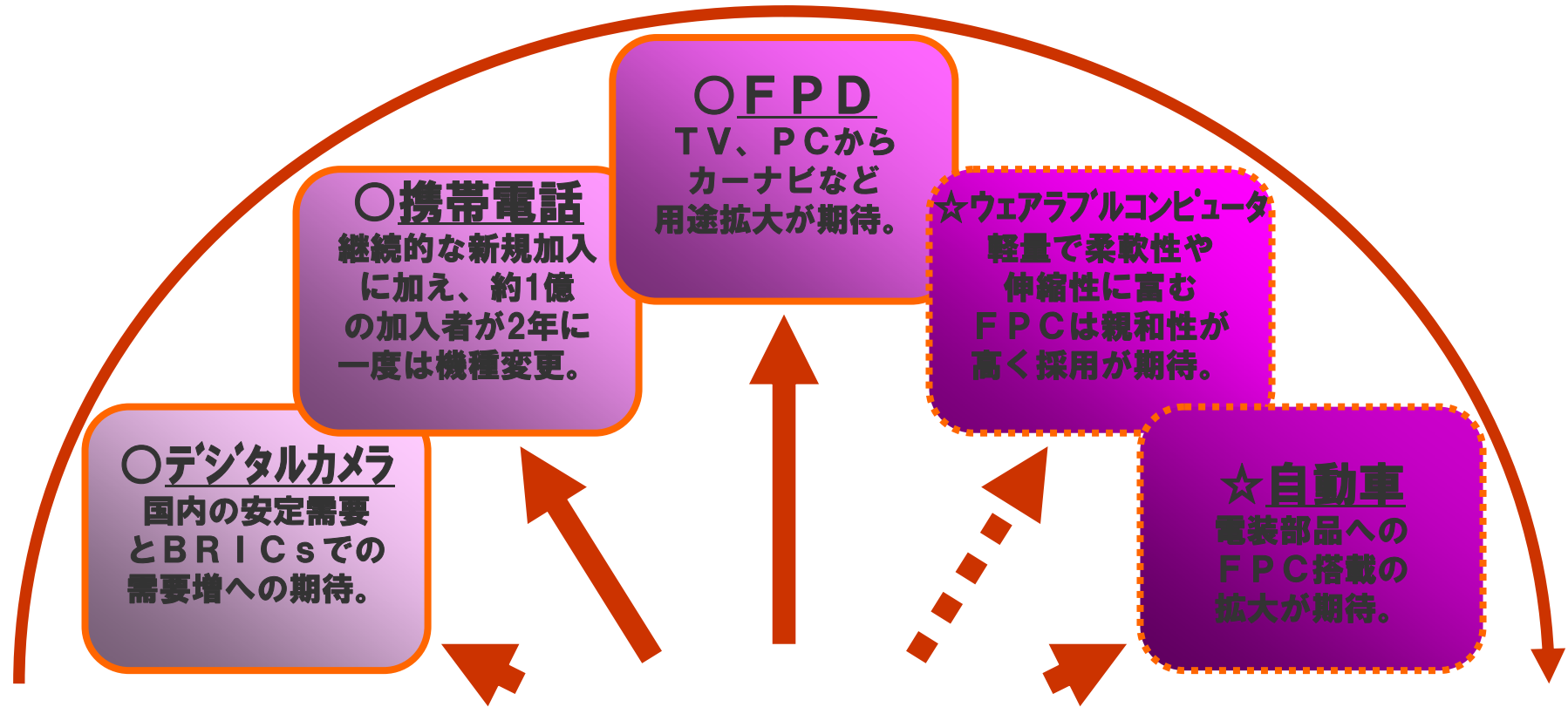
①電子基板等事業のさらなる拡大

-顧客困り込みのための取り組み No.3-



①電子基板等事業のさらなる拡大

-期待されるFPCの用途の拡大-



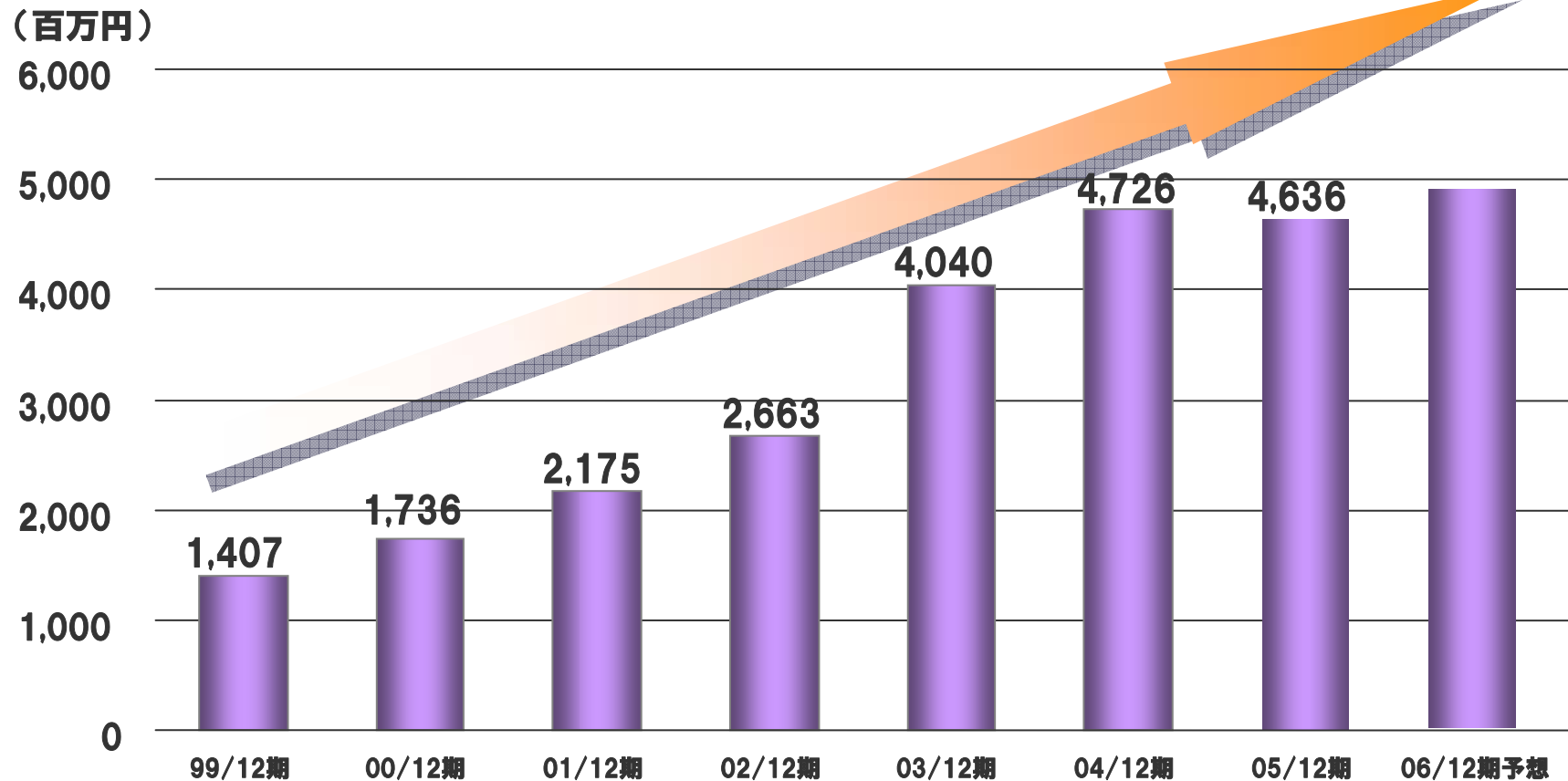
 **太洋工業株式会社**
TAIYO

①電子基板等事業のさらなる拡大

-成長拡大に向けて-

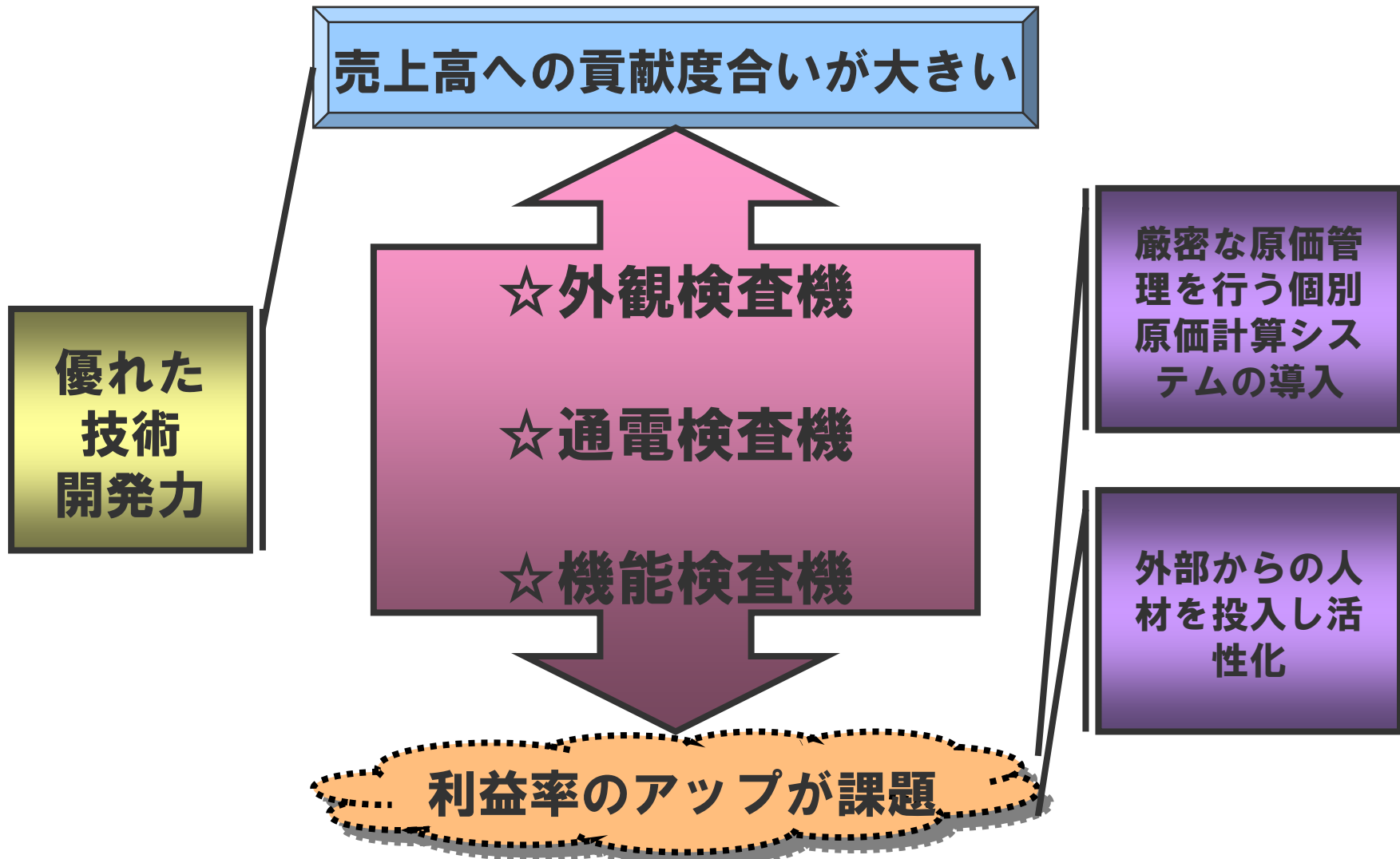
今後も主力のFPC試作は売上高増加が期待される。

<FPCの売上高の推移>

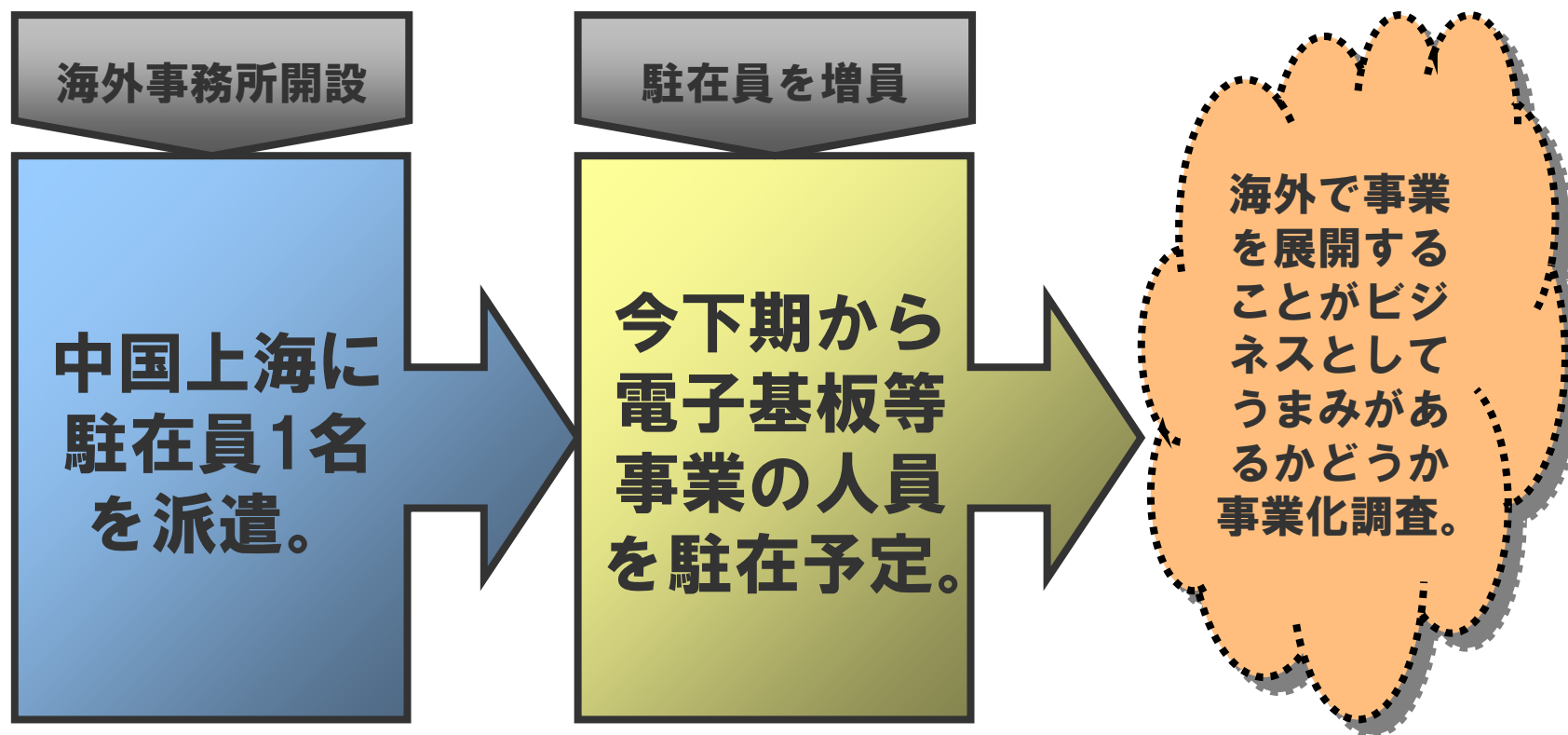


②基板検査機事業の強化

-売上高の拡大と利益率の改善-



③海外ビジネスの事業化調査



資料取扱上のご注意

- ◆本資料に記載されております当社の将来の業績に関わる見通しにつきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に予測したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。従いまして、見通しの達成を保証するものではありません。
- ◆当社の内部要因や、当社を取り巻く事業環境の変化等の外部要因が直接または間接的に当社の業績に影響を与え、本資料に記載した見通しが変わる可能性があることをご承知おき願います。